

単独支援給付金・事業計画書(単独病床機能再編計画)

1 申請者の情報		申請年月日	令和4年10月21日
フリガナ	サンヨウオノダシミンビョウイン		〒756-0094
医療機関の名称	山陽小野田市民病院		住所・所在地 山陽小野田市大字東高泊1863番地1

2 病床削減の概要(予定含む)

<許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計※2
1	①平成30年度病床機能報告における許可病床数	0	215	0	0	0	215	215
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその許可病床数 ※1						0	0

※1 平成30年度病床機能報告から令和2年4月1日までの間に、病床数の変更がない場合は記載不要

また、令和2年4月1日時点で病床数の変更があった場合も記載不要

※2 対象3区分=高度急性期、急性期、慢性期(以下同様)

<稼働病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
2	①平成30年度病床機能報告における稼働病床数	0	215	0	0	0	215	215
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその稼働病床数 ※3						0	0

※3 平成30年度病床機能報告から令和2年4月1日までの間に、病床数の変更がない場合は記載不要

また、令和2年4月1日時点で病床数の変更があった場合も記載不要

<病床削減後の許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
3	病床削減後の許可病床数	0	144	55	0		199	144

<他の医療機関との病床融通>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	対象3区分の合計
4	他の医療機関との病床融通数 ※4	0	0	0	0	0

※4 病院統合や地域医療連携推進法人の病床融通制度等を活用し、他の病院等へ病床が移転しようとする場合に記載すること。

また、「(参考) 病床移転にかかる概要」に関連する病院等の病床数を記載すること。

<対象3区分から回復期又は介護医療院へ転換した病床数>

		回復期	介護医療院	合計
5	削減病床のうち、回復期又は介護医療院へ転換した病床数	55	0	55

<年間在棟患者延べ数(人)>

		高度急性期	急性期	慢性期	合計
6	①平成30年度病床機能報告における対象3区分の病棟の年間在棟患者延べ数(人) ※5	0	66,156	0	66,156
	②令和2年4月1日時点年間在棟患者延べ数(人) ※6・7				0

※5 対象3区分の病棟に係る平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)の(48)欄の数値を計上すること。なお、平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)において、「過去1年間の間に病棟の再編・見直しあり」と報告した病棟の年間在棟患者延べ数については、以下の式により補正して計上すること。

○ 補正後の年間在棟患者延べ数=年間在棟患者延べ数((48)欄に記載された数値)×12÷報告可能な対象期間(月単位)

(注) 報告可能な対象期間(月単位)は、平成30年度病床機能報告で報告した月数とすること。

例) 報告可能な対象期間を「平成29年7月1日～平成29年12月末日」とした場合 ⇒ 報告可能な対象期間(月単位)=6

※6 平成30年度病床機能報告から令和2年4月1日までの間に、病床数の変更がない場合は記載不要

また、令和2年4月1日時点で病床数の変更があった場合も記載不要

※7 平成30年度病床機能報告から令和2年4月1日までの間に、病床数の変更がある場合は、変更後令和2年4月1日までの在棟患者延べ数を※5を参考に算定して計上すること(令和2年4月1日時点で病床数の変更があった場合は記載不要)。

3 病棟別内訳(予定含む)

【変更前の状況(R2.4.1まで)】

変更前	病棟別内訳 (病床機能報告から転記)	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	稼働病床数
		①5階病棟	急性期一般入院料4	急性期	55床	55床
		②6階病棟	急性期一般入院料4	急性期	55床	55床
		③7階病棟	急性期一般入院料4	急性期	55床	55床
		④8階病棟	急性期一般入院料4	急性期	50床	50床
計					215床	215床

※ 平成30年度の病床機能報告を転記することを原則とするが、平成30年度の報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数等に変更がある場合は変更後の病床数等を記載すること。ただし、令和2年4月1日時点で変更があった場合は、変更前の病床数等を記載すること。



【変更前の状況(現状)】 ※R2.7.1に③7階病棟急性期55床を回復期55床(地域包括ケア)に転換済

変更前	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	稼働病床数
		①5階病棟	急性期一般入院料4	急性期	55床	55床
		②6階病棟	急性期一般入院料4	急性期	55床	55床
		③7階病棟	地域包括ケア病棟入院料2	回復期	55床	55床
		④8階病棟	急性期一般入院料4	急性期	50床	50床
計					215床	215床



【令和5年度】

R5 年度	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
		①5階病棟	急性期一般入院料4	急性期	48床	R5年 9月
		②6階病棟	急性期一般入院料4	急性期	48床	R5年 9月
		③7階病棟	地域包括ケア病棟入院料2	回復期	55床	年 月
		④8階病棟	急性期一般入院料4	急性期	48床	R5年 9月
計					199床	



【令和6年度以降】(変更がない場合や計画が未定の場合は、「以後変更なし」「未定」等と記載のこと)

R6 年度	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
		①	以後変更なし			年 月
計					床	
R7 年度	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
		①	以後変更なし			年 月
計					床	

※病棟別内訳の数が不足する場合は適宜追加すること。
※計画完了時には「休棟等」がすべて削除され、存在しない状態となっていること。

病床削減が地域医療構想の実現に資するものであることの説明資料

対象医療機関名 山陽小野田市民病院

1 地域の状況		
地域の現状と課題	<p>令和3年度病床機能報告によると、宇部・小野田医療圏では、急性期の病床が過剰とされる一方、回復期の病床が極端に少ない状況となっている。さらに、宇部・小野田医療圏では、今後人口が減少し、高齢者の人口に占める割合は増加すると見込まれる。</p> <p>それに伴い、高齢者の入院患者も増加すると見込まれ、救急医療を担う医療機関の役割分担、相互連携の推進や地域包括ケア病棟の整備、急性期病床からの転換等による回復期機能の確保等が必要とされている。</p>	
2 自施設の状況		
自施設の現状(変更前)	<p>急性期病床160床、回復期病床(地域包括ケア病床)55床を有する、主として急性期患者を診療する地域の中核病院であり、公立病院の役割として地域医療の水準の維持向上や救急医療・災害医療の確保に努めるほか、感染症対策にも柔軟に対応している。</p> <p>また、在宅療養後方支援病院として緊急時の一時入院に必要な後方病床の確保等、積極的に在宅療養の支援を行っているほか、介護施設などの連携も推進しており、地域包括ケアシステムの構築にも大きく寄与している。</p>	
病床数の見直し	見直しの考え方	<p>地域医療構想における機能分化・連携強化の取組として、令和2年7月に急性期病棟のみの運営を見直し、215床中55床を地域包括ケア病棟に転換している。</p> <p>このたび、将来の医療需要の減少及び他の高度急性期・急性期病院との機能分化・連携強化を踏まえ、限られた医師・看護師等の医療資源を最大限効率的に活用し、持続可能な地域医療提供体制を確保するため、さらに運営を見直し、圏域で過剰とされている急性期病床を16床削減する。</p> <p>今後も一般病床及び地域包括ケア病床を有する地域の中核病院として、良質で高度な医療を提供するとともに、高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう医療・介護・福祉と連携していく。</p>
	対象の病棟・病床の概要	一般病棟入院基本料(急性期一般入院料4)、病気を発症して間もない時期など、状態が急速に悪化する時期の患者が対象となる病床
	入院患者への対応	他院への転院や別の病棟への転棟により徐々に入院を減らして調整する。
3 病床削減が地域医療構想の実現に資するものである理由		
理由	<p>病床削減により、医師・看護師等の医療資源を集約しつつ、経営を強化することができ、地域における当院の機能を維持することができる。また、圏域で過剰とされる急性期病床を削減することにより、地域医療構想に掲げる必要病床数の実現に向け寄与することができると考えられる。</p>	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R4		R5		R6	R7	計
		変更時期		変更時期			
高度急性期							
急性期			△ 16	R5年9月			△ 16
慢性期							
合計			△ 16				△ 16

【参考:R3病床機能報告(宇部・小野田保健医療圏の状況)】

病床区分	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	介護保険施設移行予定	合計
	報告						
①R3(2021)現状	378	1,783	615	1,356			4,132
②R7(2025)予定	378	1,721	743	1,269	21		4,132
構想							
③R7(2025)必要数	328	937	879	1,064			3,208
④構想との差(R3)(①-③)	50	846	△ 264	292			924
⑤構想との差(R7)(②-③)	50	784	△ 136	205	21		924